

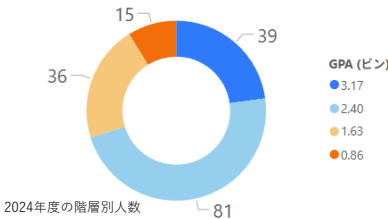
2024年度 卒業生アンケート 集計結果(概要)

- ◆ 調査実施日 : 2025年3月15日(卒業式後)～3月31日
- ◆ 実施方式 : manabaのアンケート機能を利用
- ◆ 回収率 : 95.5% (2023年度 91.0%)
- ◆ 回収枚数(有効数) : 171 (卒業生数:179) FB:63 AB:38 MB:48 臨床:22

※2018年度以降の各学科別の集計値には臨床コースは含んでいない。 ※各設問の結果(割合)は、無回答者を除く
臨床コースは独立して集計

※GPAは4階層に区分

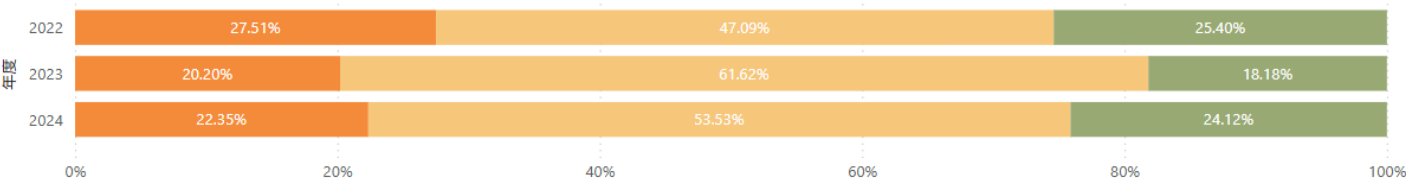
	表記	GPA範囲
成績上位	3.17	3.17 ≦ 本人のGPA
成績中上位	2.40	2.40 ≦ 本人のGPA < 3.15
成績中下位	1.63	1.63 ≦ 本人のGPA < 2.39
成績下位	0.86	本人のGPA < 1.63



問1. みなさんの大学入学から卒業までの、学習成果についてお聞きます。

問1-1. 学位授与方針(DP)は知っていましたか？

値 ● 1.内容を知っていた ● 2.あることは知っていた ● 3.あることを知らなかった

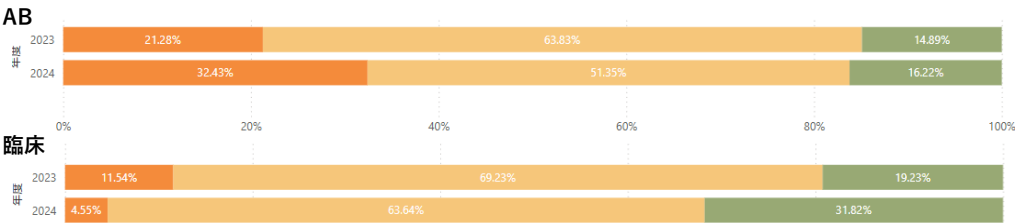


問1-1について(AIによる解説)

2024年度の問1-1に関する分析では、学生の認知状況に一定の課題が見られました。「内容を知っていた」と回答した学生は全体の中で少数にとどまり、「あることは知っていた」が最多となっています。GPAとの関係では、「内容を知っていた」層の平均GPAがやや高く、方針の理解が学修成果に一定の影響を与えている可能性が示唆されます。2023年度と比較すると、「あることを知らなかった」と回答した学生の割合が増加しており、特に臨床系コースでの認知度低下が顕著でした。一方、アニマルバイオ(AB)では認知度が向上しており、学科コースごとの周知状況に差があることが明らかです。今後は、方針の内容をより深く理解させるための情報提供の工夫と、コースごとの特性に応じたアプローチが求められます。

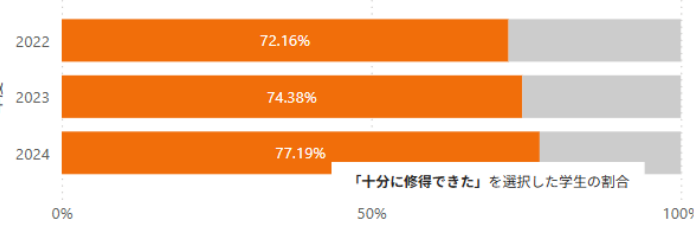
解説中の補足 PICKUP

値	GPAの平均
1.内容を知っていた	2.72
2.あることは知っていた	2.66
3.あることを知らなかった	2.67
合計	2.68

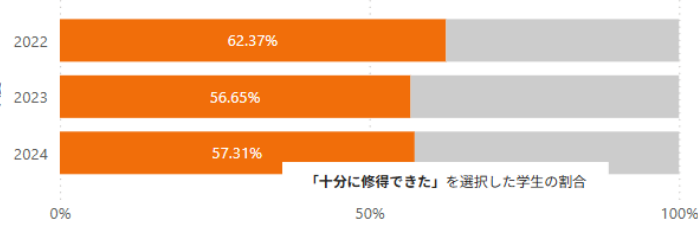


問1-2. 大学を卒業するにあたり、学位授与方針(DP)に明示されている能力（認識・知識）は、十分に修得することができたと思いますか？ ※「十分に修得できた」場合のみチェック

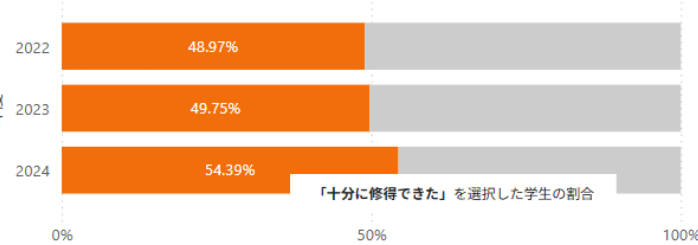
問1-2(1) バイオサイエンス分野の専門知識と技術



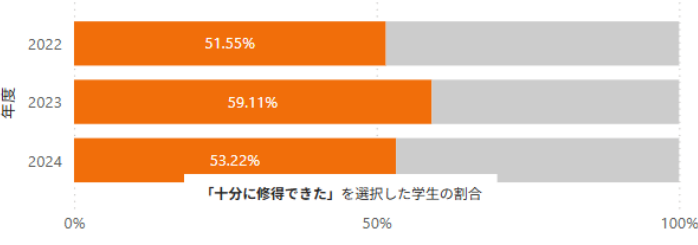
問1-2(4) 生命の尊厳と倫理観、地球環境への洞察力



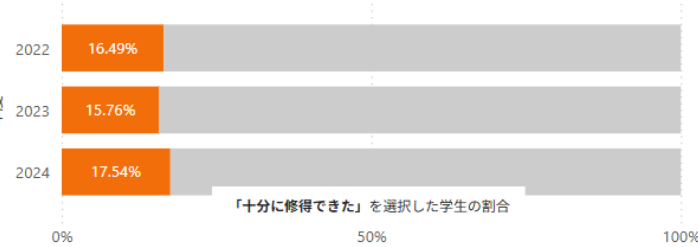
問1-2(2) 情報解析力



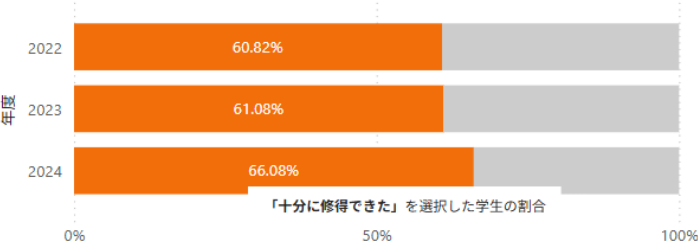
問1-2(5) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力



問1-2(3) 国際化に対応できる語学力



問1-2(6) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力



問1-2について(AIによる解説)

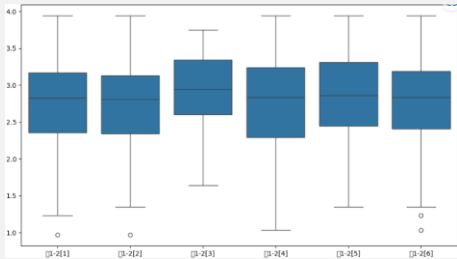
全体として、専門性と協働性に強みがあり、語学力に課題が残るという構図が浮かび上がります。

1. 専門知識と技術（[1]）
最も高い評価を得たのが「バイオサイエンス分野の専門知識と技術」で、77.2%の学生が「十分に修得できた」と回答しました。これは、カリキュラムが専門性の高い内容に重点を置いており、実験や実習などの実践的な学びが効果的に機能していることを示唆しています。
2. 協働行動力（[6]）
次に高かったのが「他者と協力して物事にあたる行動力」で、66.1%の学生が肯定的に評価しました。グループワークやプロジェクト型学習（PBL）など、協働を促す教育手法が浸透していることが背景にあると考えられます。
3. 語学力（[3]）
最も低かったのが「語学力（外国語・日本語）」で、17.5%にとどまりました。これは、語学教育の機会や実践の場が限られている、あるいは学生自身の語学力への自己評価が厳しい可能性があります。国際化対応の観点から、今後の強化が求められる分野です。

■ GPAとの関連

GPAとの関連を見ると、語学力（[3]）や主体的思考力（[5]）で「十分に習得できた」と回答した学生の平均GPAが高く、学業成績が良好な学生ほど、これらの能力を自覚的に評価している傾向が見られます。これは、学力と自己認識の高さが相関していることを示唆しています。

能力項目	平均GPA
[1] バイオサイエンス分野の専門知識と技術	2.74
[2] 情報解析力	2.71
[3] 語学力（外国語・日本語）	2.92
[4] 生命倫理・環境洞察力	2.73
[5] 主体的思考力	2.84
[6] 協働行動力	2.76



■ 学科コース別の特徴

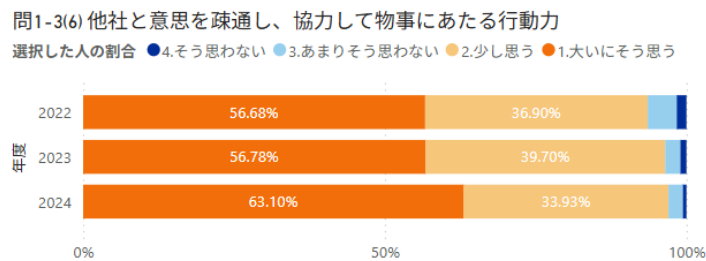
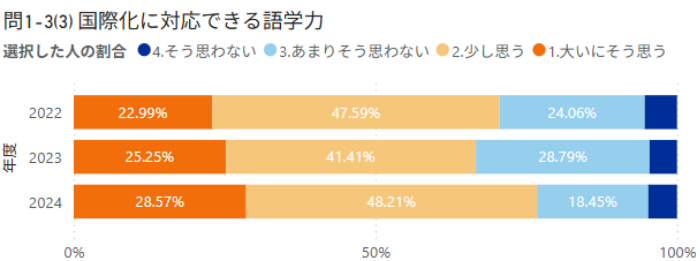
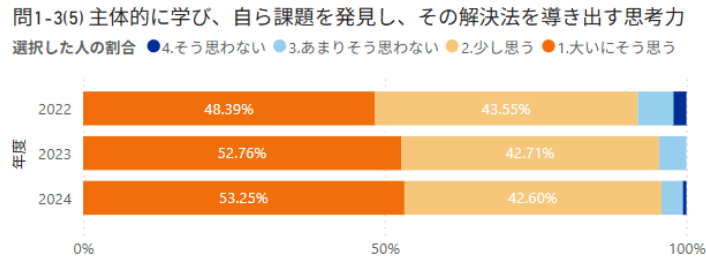
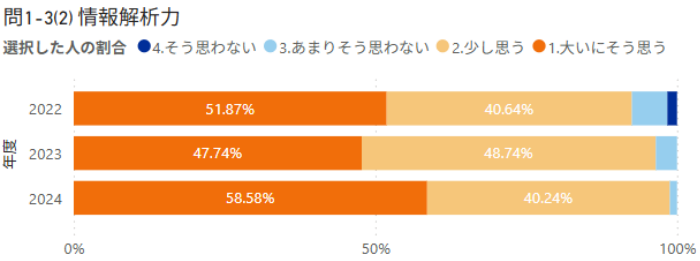
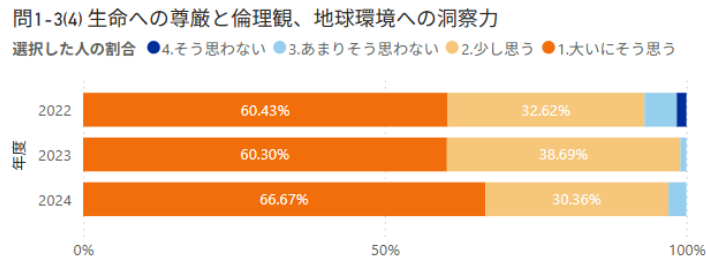
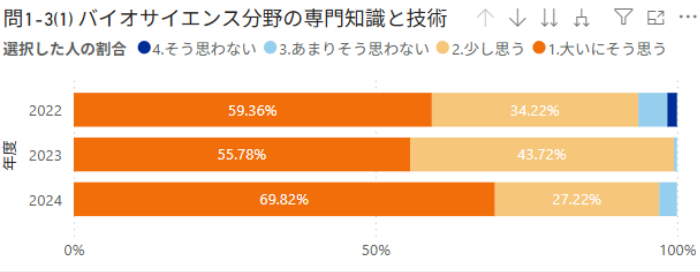
臨床検査学コースでは、[5]主体的思考力（63.6%）と[6]協働行動力（72.7%）が特に高く、実践的な学びが反映されている可能性があります。一方で、[2]情報解析力（36.4%）や[3]語学力（9.1%）は他コースよりも低く、改善の余地があります。

■ 2023年度との比較

全体的に向上傾向：特に[2]情報解析力（+4.6pt）、[6]協働行動力（+5.0pt）など、複数項目で改善が見られました。
[5]主体的思考力の低下：唯一、[5]が前年より約5.9ポイント低下しており、教育内容や学生の自己認識に変化があった可能性があります。

問1-3. バイオ大学の入学から卒業までの教育課程は、学位授与方針(DP)に明示されている能力を修得するにあたって十分な内容でしたか？

※4段階評価(大いにそう思う/少し思う/あまりそう思わない/そう思わない)

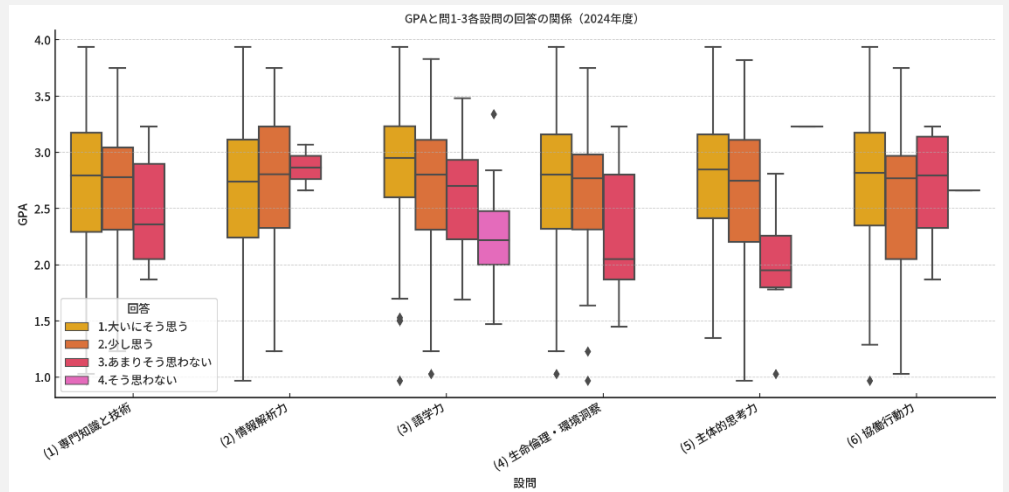


問1-3について

全体として「1.大いにそう思う」「2.少し思う」が大半を占めており、いずれの設問も肯定的な評価が多く見られました。特に(1)「専門知識と技術」、(4)「生命倫理と環境洞察」、(6)「協働行動力」は、「大いにそう思う」が6割超と高評価を得ています。一方で、(3)「語学力」は「大いにそう思う」が約3割にとどまり、「あまりそう思わない」「そう思わない」が2割超と、相対的に評価が分かれる結果となりました。これは例年同様、語学教育や国際対応への満足度に課題があることを示唆します。

【GPAとの関係】

GPAと教育課程の評価(問1-3)の間には、概ね「教育課程に満足している学生はGPAも高い」という傾向が見られます。特に(1), (3), (4), (5)ではその傾向が顕著であり、大学が提供する教育内容が、成績という成果面とある程度一致していることを示しています。一方、(2)や(6)では逆転やばらつきもあり、GPA以外の要因(授業満足度、指導スタイルなど)も影響している可能性があります。



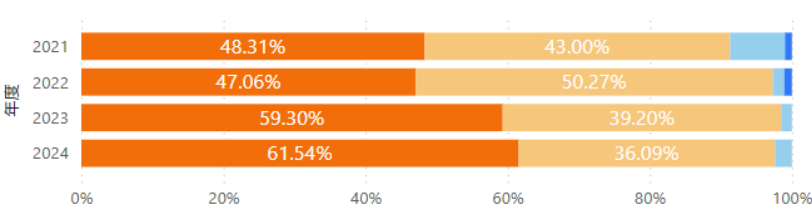
【2023年度との比較での留意点】

全体的に「大いにそう思う」の割合が微増しており、教育改善の成果がうかがえます。ただし、設問文の変更や選択肢の表現に差異がないか、また回答者数や属性の違いにも注意が必要です。形式的な比較ではなく、傾向の変化を慎重に見極める必要があります。

問2. 本学のカリキュラム・授業について、あなたはどの程度満足しましたか？

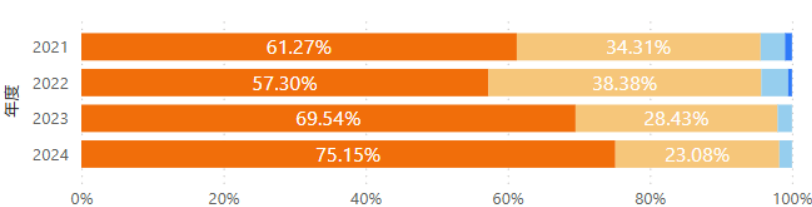
問2(1) 講義科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



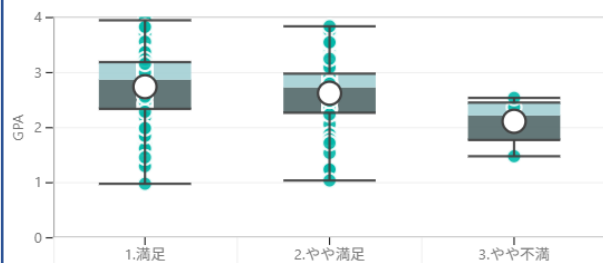
問2(2) 実験・実習科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満

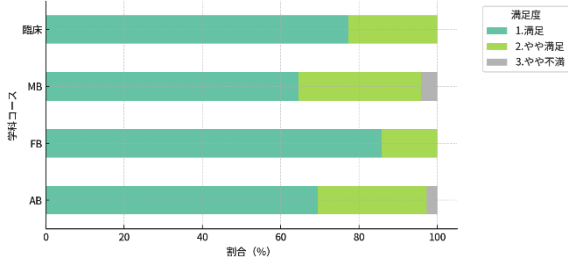


PICKUP

講義科目の満足度とGPAの関係(2024年度)



2024年度 実験実習満足度 (学科コース別)



問2について

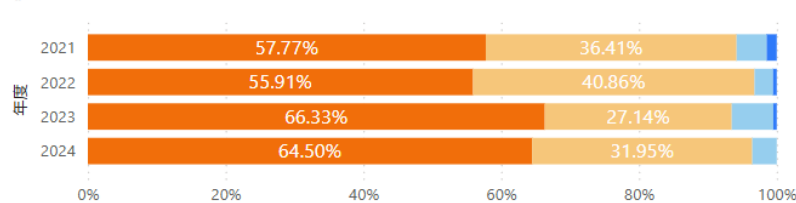
講義科目に対し「満足」が61.54%、「やや満足」が36.09%と、9割以上が肯定的に評価しています。実験実習科目に対してはさらに高く、「満足」が75.15%に達し、教育の実践的側面への高い満足度が示されました。満足度と成績に大きな乖離は見られません。

学科コース別では、FBコースにおいて特に実験実習への満足が高く（満足：85%以上）、実践教育の効果が顕著です。一方、MBコースではやや不満も見られ、改善の余地がうかがえます。

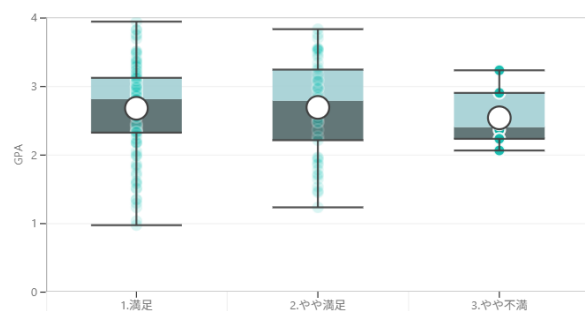
問3. 教員の授業への取り組みについて、あなたはどの程度満足しましたか？

問3(1) 教員の授業に対する創意工夫

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満

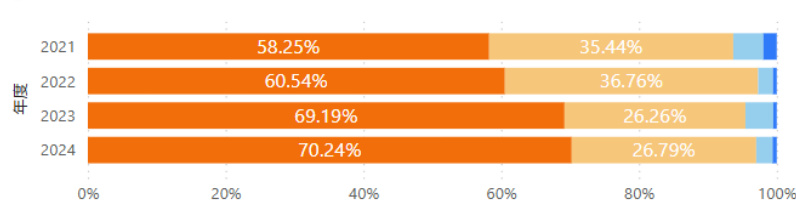


問3(1)とGPAの関係(2024年度のみ)

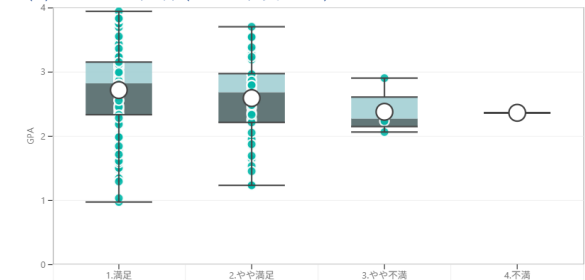


問3(2) 教材・研究等の準備

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



問3(2)とGPAの関係(2024年度のみ)



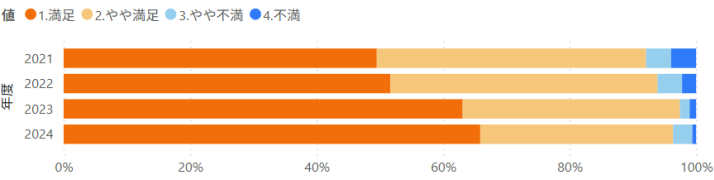
問3について

2024年度の回答結果によると、教員の「創意工夫」および「教材・研究等の準備」に対する満足度は非常に高く、それぞれ約7割が「満足」または「やや満足」と評価しています。否定的な回答（「やや不満」「不満」）は全体の1～3%台にとどまり、授業運営への教員の努力が広く認識されていることがうかがえます。満足度と学修成果の間に極端な乖離は見られません。

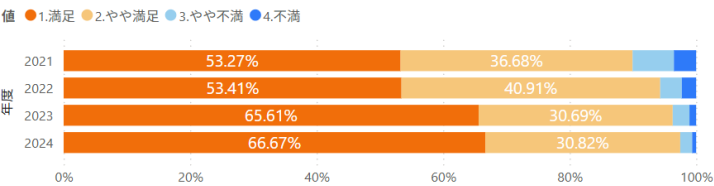
学科コース別ではFBコースの「満足」割合が68.3%と最も高く、教育への取り組みに対する評価が特に良好です。

問4. 事務室では様々な学生支援をしています、窓口の対応の仕方を含め、あなたはどの程度満足しましたか？

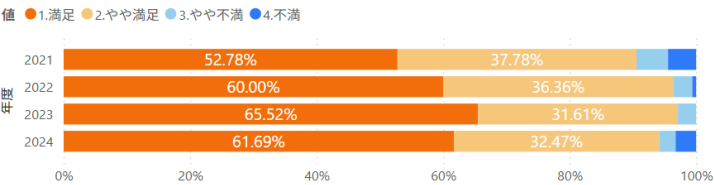
問4(1) 教務担当



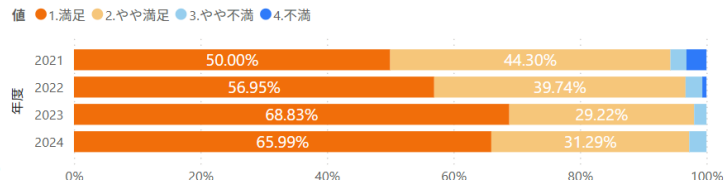
問4(2) 学生担当



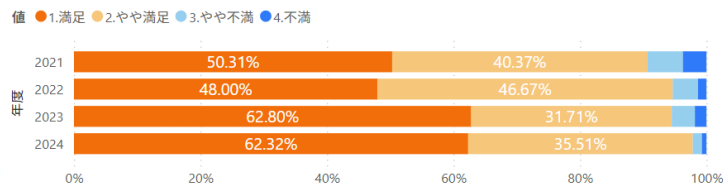
問4(3) 就職キャリア担当



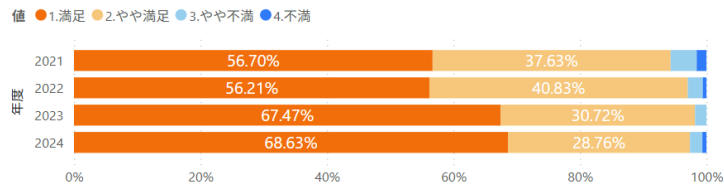
問4(4) 学習支援センター



問4(5) 総務担当

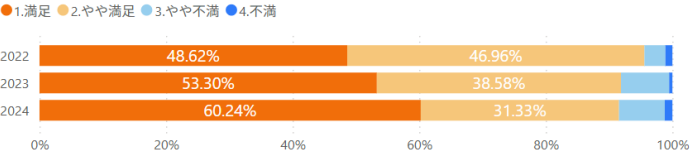


問4(6) 図書室

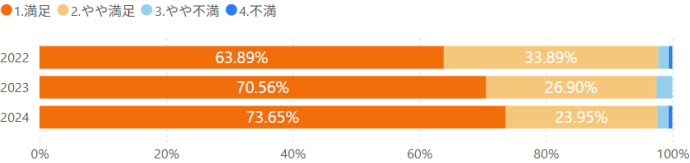


問5. 本学施設や設備について、あなたの感想を聞かせてください。

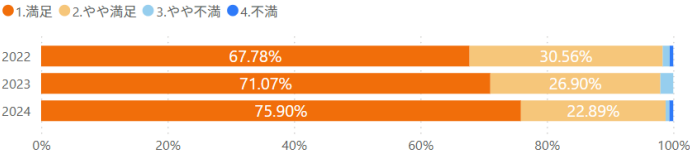
問5(1) 講義教室



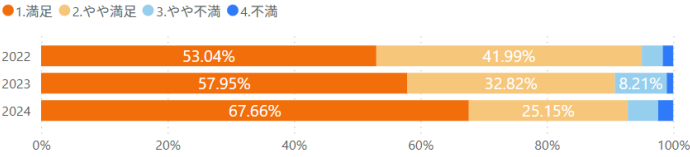
問5(2) 学生実験室



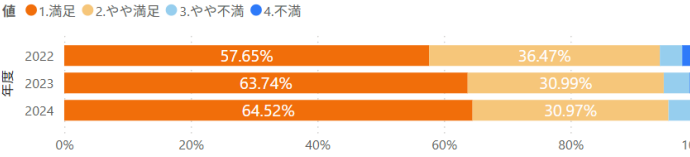
問5(3) 実験機器・設備



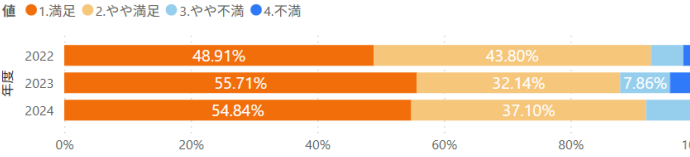
問5(4) 情報実習室



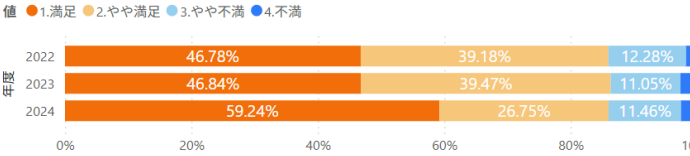
問5(5) 図書室



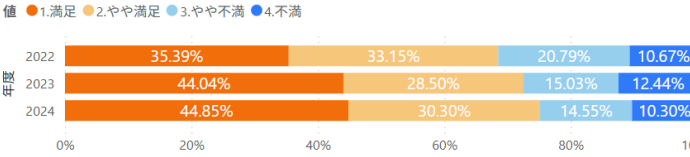
問5(6) 体育施設



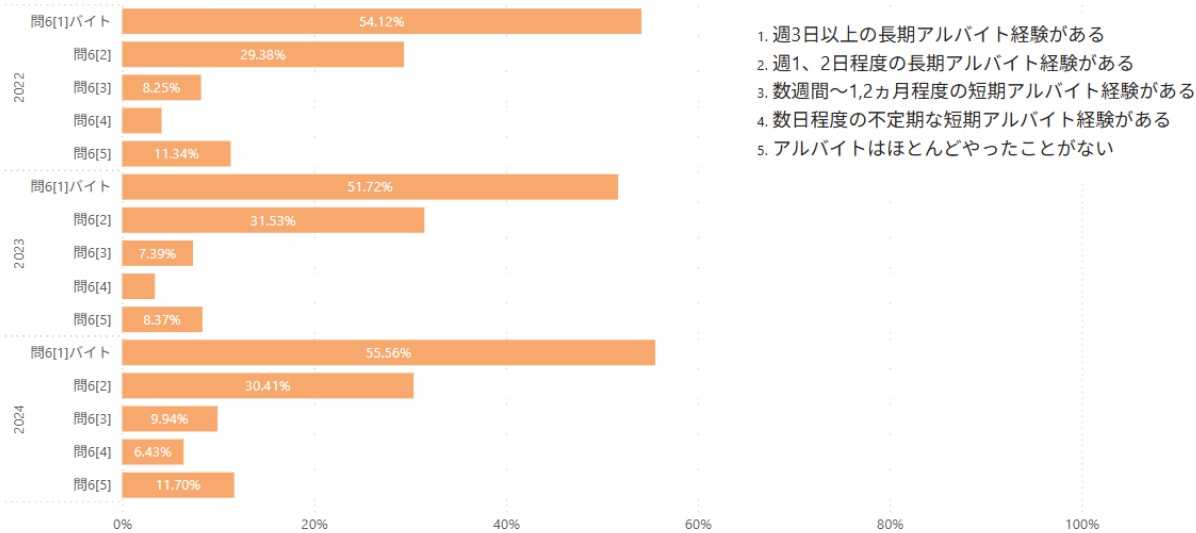
問5(7) 食堂



問5(8) 無線LAN

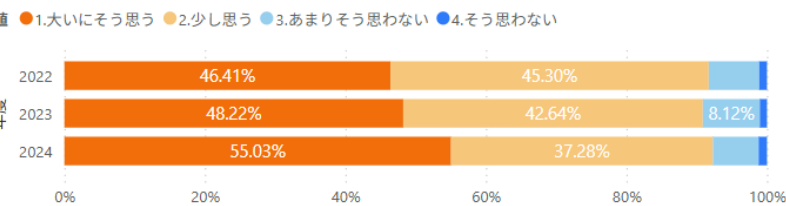


問6. 在学中のアルバイト経験

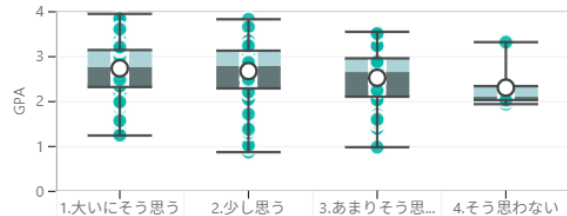


問7. 大学生活や大学について

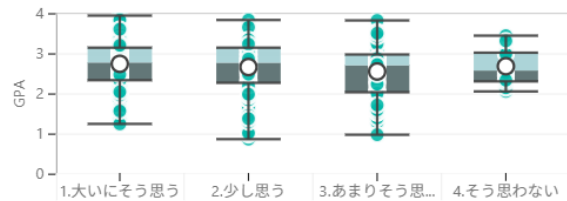
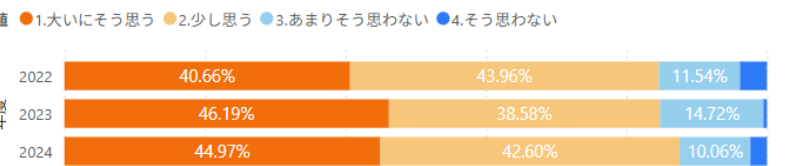
問7(1)大学の教員と良い関係を築くことができた



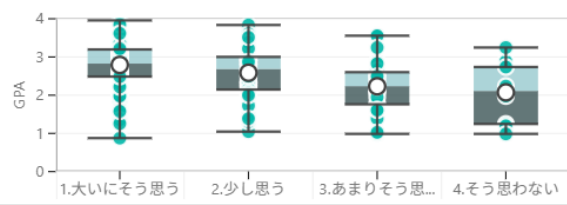
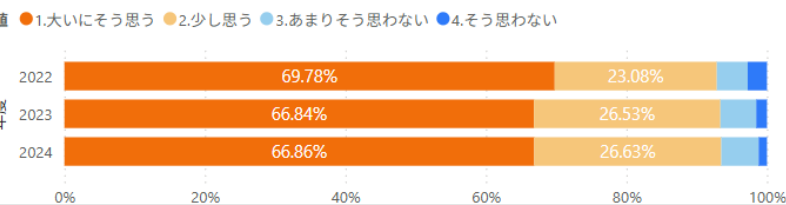
問7(1)-(6)とGPAの関係(2024年度のみ)



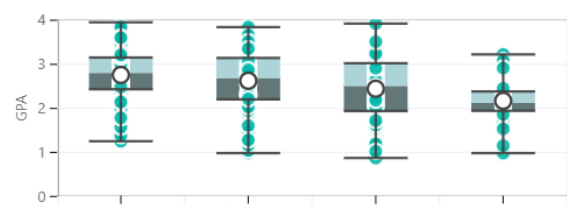
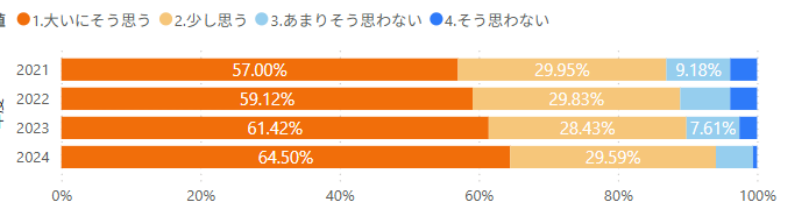
問7(2)大学の職員と良い関係を築くことができた



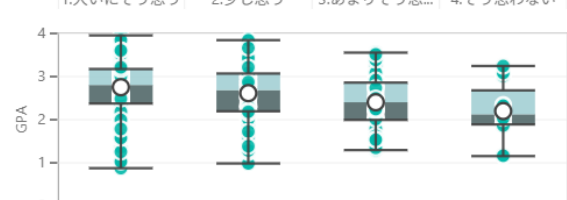
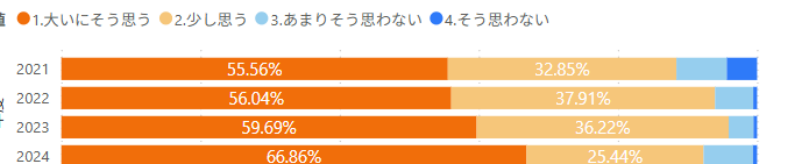
問7(3)大学の友人と良い関係を築くことができた



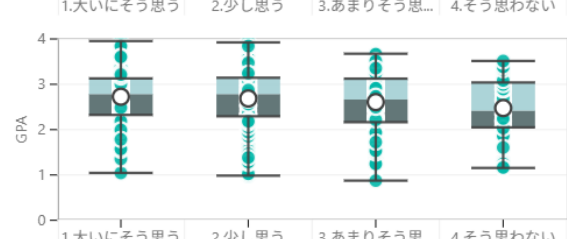
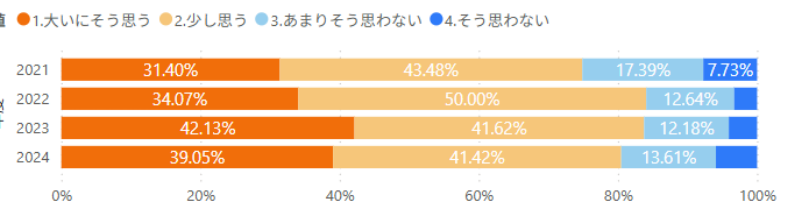
問7(4)研究室のメンバーと良い関係を築くことができた



問7(5)大学での生活に満足できた



問7(6)後輩・知人・友人等に長浜バイオ大学への入学を勧めたい



問7について【AIによる解説】

【全体傾向】

問7では、大学生生活全般における人間関係や学生生活の満足度、大学への推奨意向について尋ねています。全体として「大いに思う」「少し思う」と回答した割合が高く、長浜バイオ大学での学生生活に対する評価はおおむね良好です。

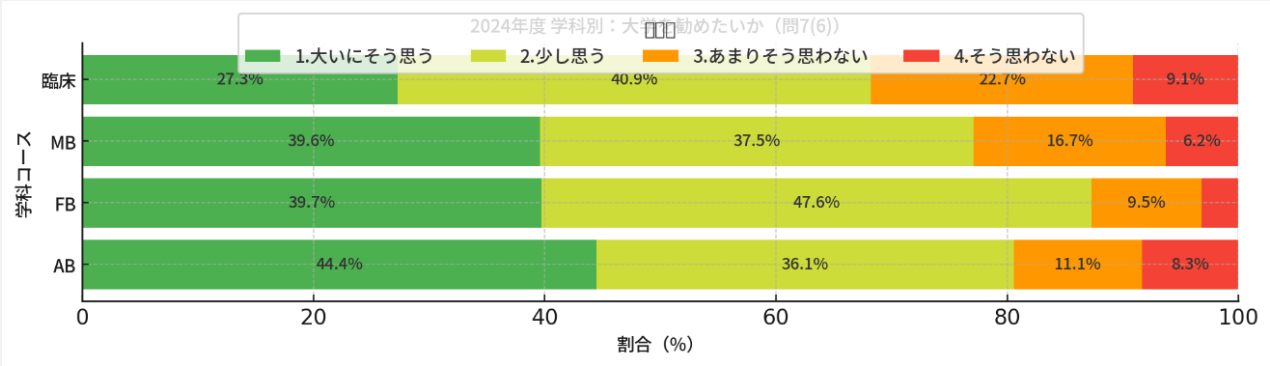
特に、(3)「大学の友人との関係」および(4)「研究室メンバーとの関係」では、「大いに思う」が6割前後、「少し思う」と合わせると9割以上が肯定的な評価を示しており、**人間関係の良好さが本学の特徴の一つ**であることがうかがえます。(1)教員、(2)職員との関係も8～9割が肯定的に回答しており、教職員と学生の距離が比較的近く、親しみやすい大学風土があることを裏付けています。

(5)「大学での学生生活に満足できた」では、「大いに思う」が**66.9%**、「少し思う」が25.4%で、**実に9割を超える学生が満足している**という非常に高い評価となっています。これは、授業・研究だけでなく、サークル活動や日常生活を含めた大学生生活全体に対する評価と解釈されます。

一方で(6)「後輩・知人・友人に本学を勧めたい」では、「大いに思う」が約39%にとどまり、「あまりそう思わない」「そう思わない」が10%強存在しています。**学生自身の満足度と推奨意欲の間に一定のギャップ**がある点は注目されるべきで、満足しているが積極的には勧めにくい背景に何があるのかを今後検討する必要があります。

【学科コース別の特徴】

(6)大学推奨度に関して学科コース別に見ると、FB（フロンティアバイオ）コースでは「大いに思う」が約39.7%、**肯定的評価が87.3%に達しており、満足度・推奨度ともに高い傾向**があります。対して臨床コースでは「大いに思う」が27.3%にとどまり、「あまりそう思わない」「そう思わない」が合計約31.8%となっており、他のコースに比べて推奨度が低い傾向にあります。これは教育内容や進路支援の違い、実習環境などに起因する可能性があり、今後の重点的な調査や改善の指針となるでしょう。



問7の小問(1)～(6)について、**2024年度の相関係数**を算出した結果、以下のような**関連性が強い組み合わせ**が見られた。人間関係の良好さは、学生生活の満足度や大学の推奨意欲と強く関係していることが示されました。

※相関係数は回答を以下の数値に置き換えた上でピアソンの相関係数を用いた

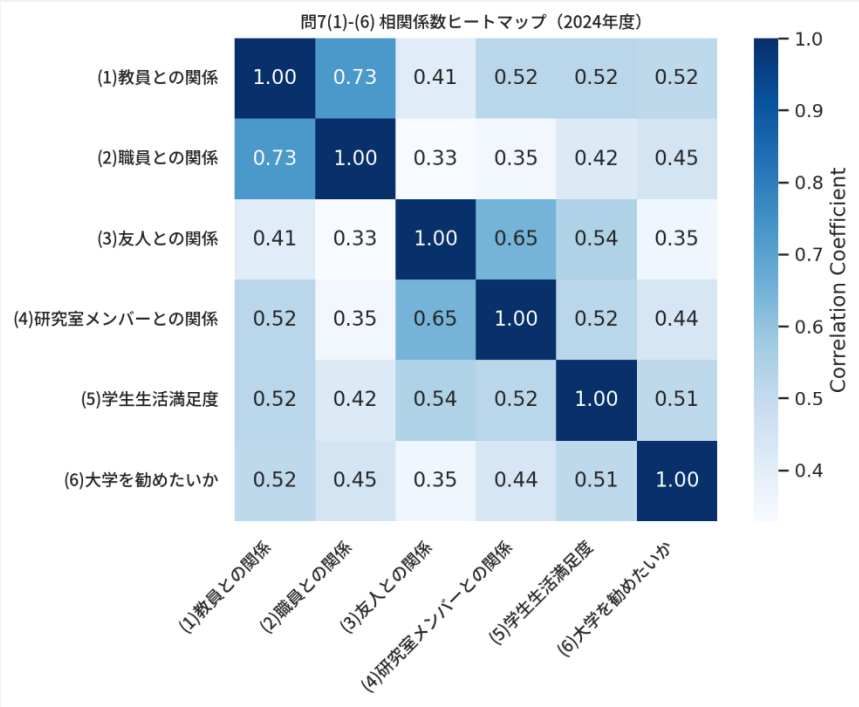
回答	数値
大いに思う	4
少し思う	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1

特に関連性が高い項目（相関係数 ≥ 0.6 ）：

- (3) 友人との関係 と (4) 研究室メンバー関係
- (1) 教員との関係 と (2) 職員との関係

中程度の関連性（相関係数 0.5～0.6）：

- (3) 友人との関係 と (5) 学生生活全体の満足度：
- (1) 教員との関係 と (4) 研究室のメンバーとの関係
- (4) 研究室のメンバーとの関係 と (5) 学生生活全体の満足度
- (1) 教員との関係 と (5) 学生生活満足度
- (1) 教員との関係 と (6) 大学推奨意欲

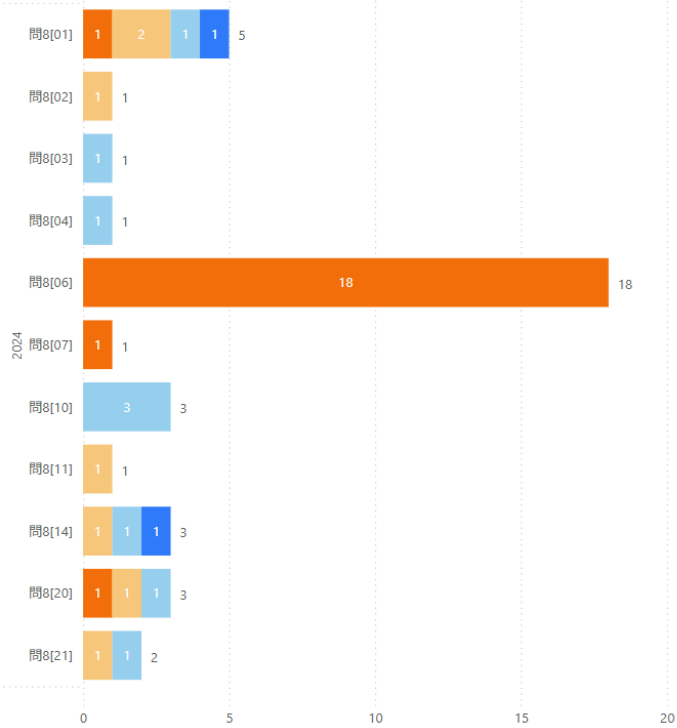


問8. 在学中に取得した資格

※臨床検査技師を除く

大学在学中に取得した資格、検定

学科C ●AB ●BS および FB ●CB および MB ●臨床



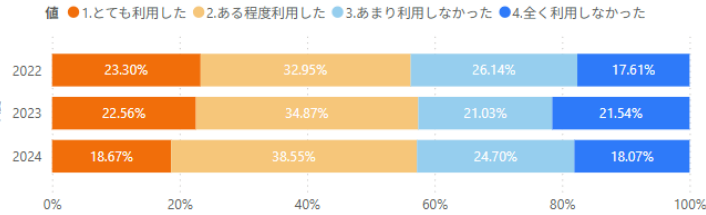
- 1. 中級バイオ技術者
- 2. 上級バイオ技術者
- 3. 危険物取扱者（甲種）
- 4. 第2種 放射線取扱主任者
- 5. 第1種 放射線取扱主任者
- 6. 実験動物技術者（2級）
- 7. 実験動物技術者（1級）
- 8. 環境計量士
- 9. エックス線作業主任者
- 10. ITパスポート
- 11. 基本情報技術者
- 12. 応用情報技術者
- 13. パイオインフォマティクス技術者
- 14. 毒物劇物取扱責任者
- 15. 医療情報技師
- 16. 統計検定（2級）
- 17. 統計検定（3級）
- 18. 英検1級
- 19. 英検準1級
- 20. 英検2級
- 21. 英検準2級

その他	
AB	日本語能力試験 1級
BS および FB	TOEFL 100点以上 TOEIC ありません。 危険物取扱者乙4種 初級バイオ技術者 中型自動車免許 日商簿記3級 日本化粧品検定2級
CB および MB	なし 数検準2級 第一種外務員
臨床	心電図検定 4級 心電図検定4級 心電図検定 4 級 臨床検査技師国家試験、心電図検定4級

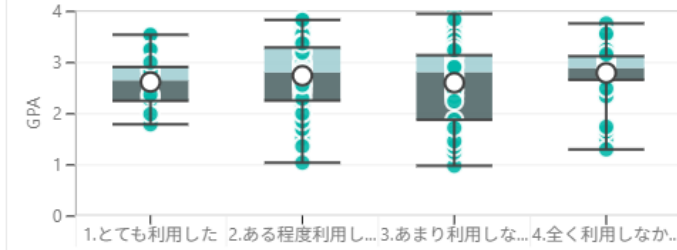
※問9：この資料上は欠番(本資料では問番号は2022年度までの番号を採用)

問10. 就職・キャリアサポートセンターの利用について

問10 就職・キャリアサポートセンターの利用について選択してください



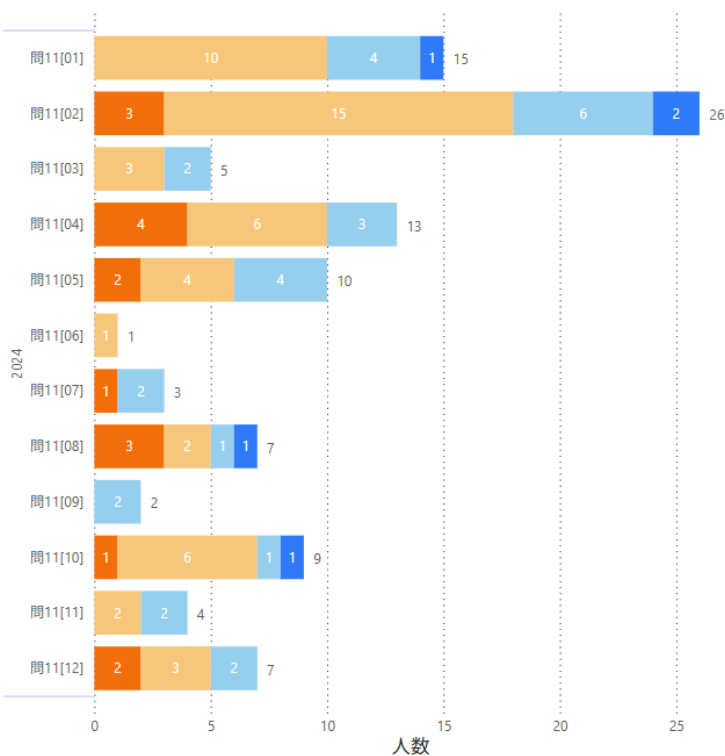
2024年度のみ



問11. 利用しなかった理由

問11 利用しなかった理由について選択してください。

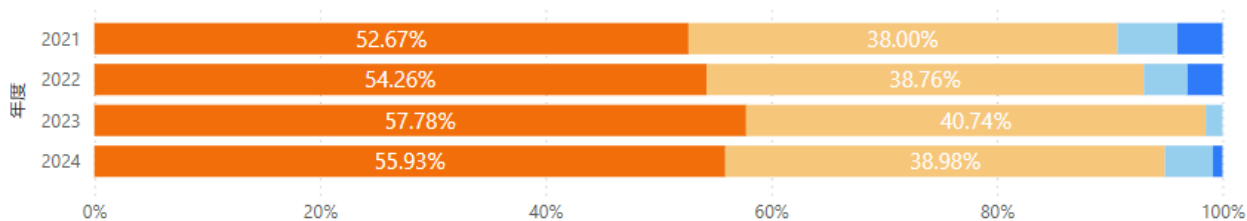
学科 ● AB ● BS および FB ● MB ● 臨床



- 1.何となく敷居が高く入る勇気がないから
- 2.何を相談したらいいのか分からないから
- 3.利用方法が分からないから
- 4.就活は自力でできるため、利用の必要性がなかったから
- 5.支援を受ける前に内定をいただくことが出来たから
- 6.キャリアサポートセンターの担当者と合わなかったから
- 7.すでに利用したことのある人から利用しない方がいいと聞いたから
- 8.利用しても支援内容に期待できないと思ったから（または実際にそう感じたから）
- 9.否定されたり、責められると思ったから（または実際にそう感じたから）
- 10.家から大学が遠く、利用するのに時間がかかるから
- 11.就職活動そのものに前向きになれなかったから
- 12.その他

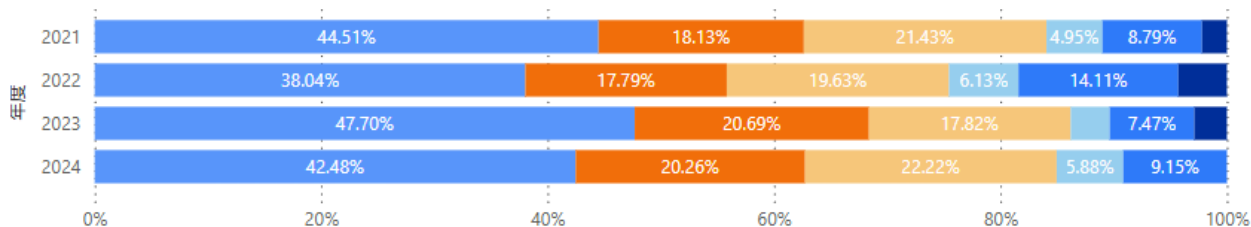
問12. 就職・キャリアサポートセンター職員やキャリアカウンセラーによる個別相談の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



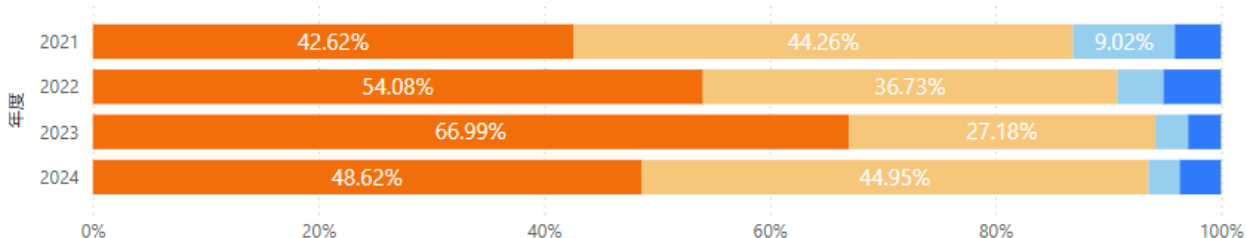
問13. 就職・キャリアサポートセンター職員やキャリアカウンセラーによる個別相談で重視する項目

値 ● 1.添削指導 ● 2.情報提供 ● 3.就活のノウハウ ● 4.企業対応 ● 5.信頼関係 ● 6.その他



問14. 模擬面接の満足度

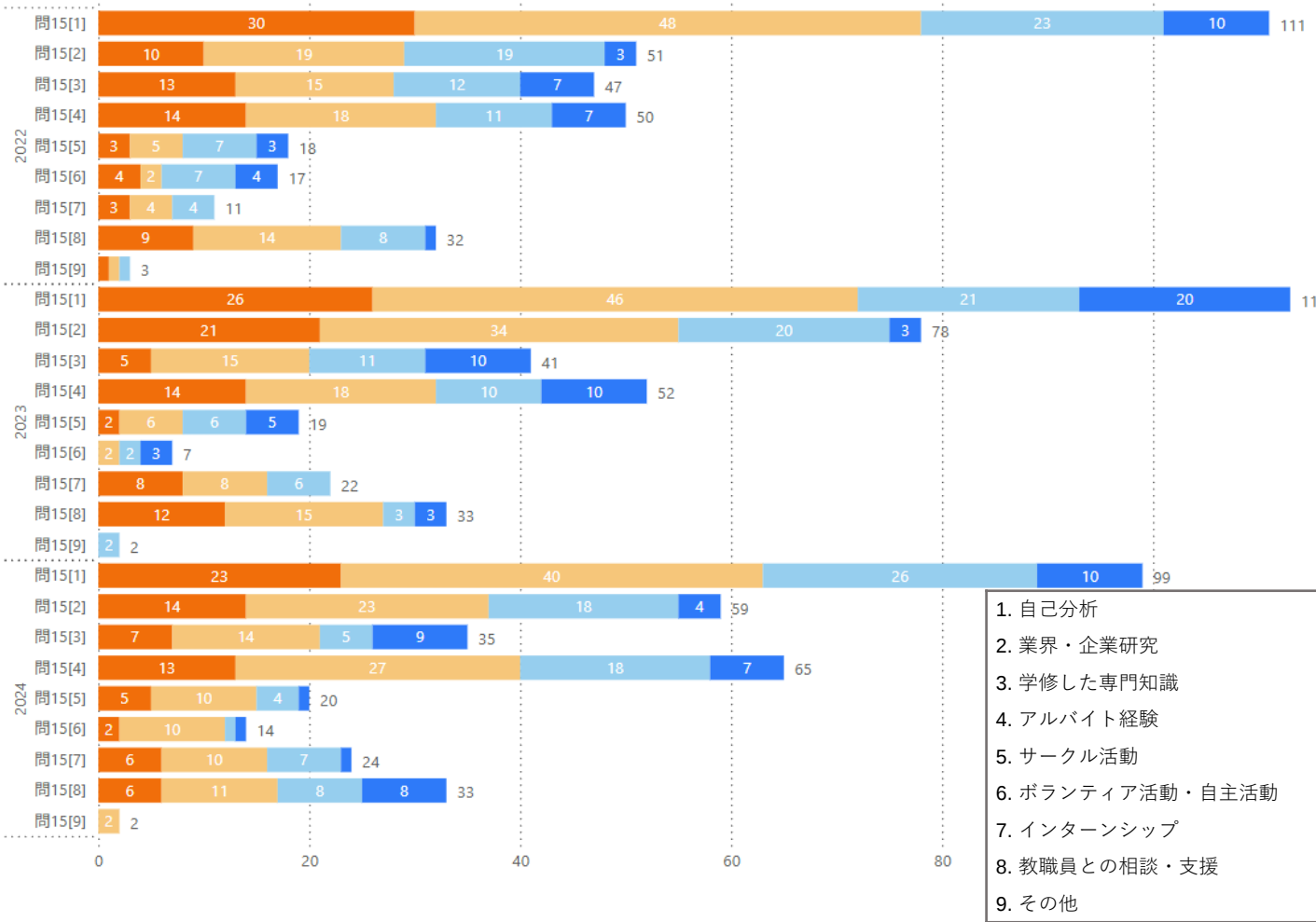
値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



問15. 進路を決定する際に役立ったこと（複数選択可）

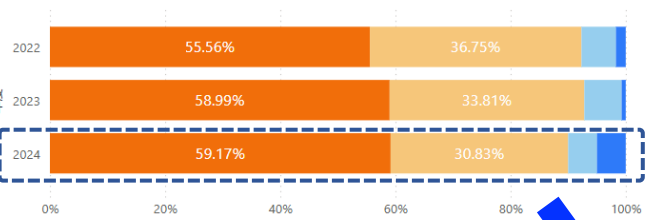
問15 進路を決定する際に役立ったことを選択して下さい。

学科C ●AB ●BS および FB ●MB ●臨床

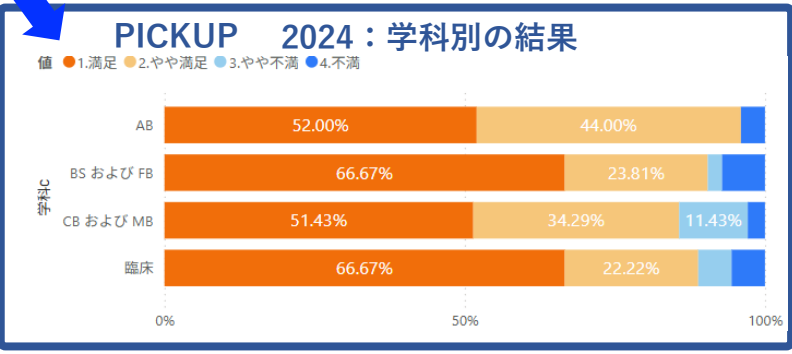
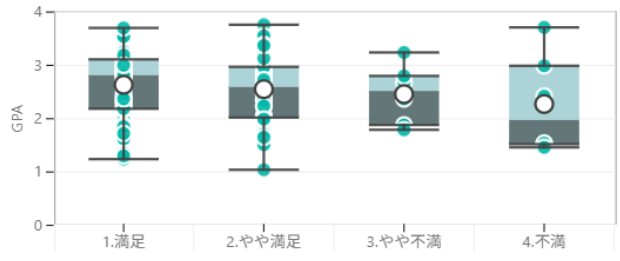


問16. 就職先に満足していますか

値 ●1.満足 ●2.やや満足 ●3.やや不満 ●4.不満

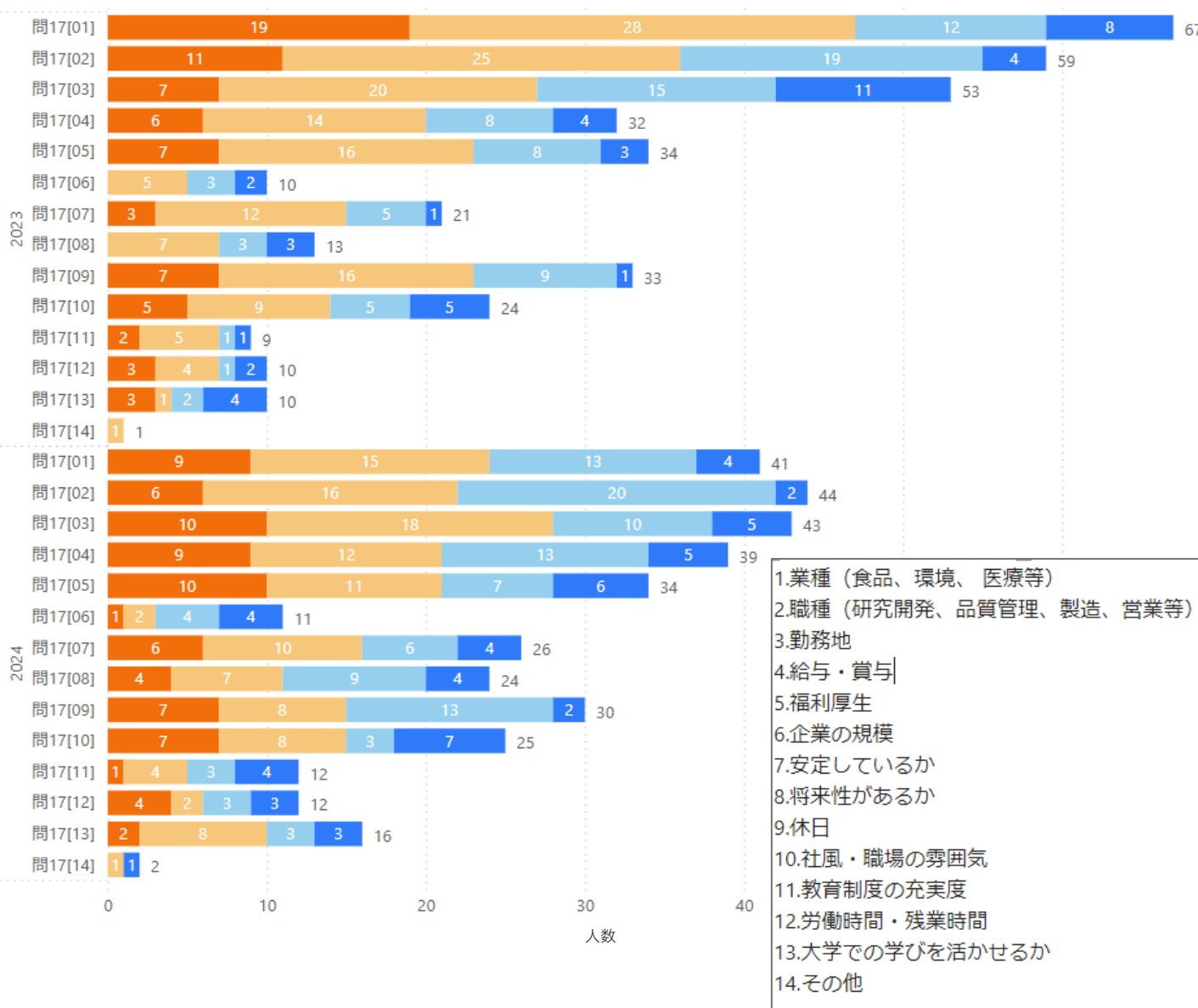


2024年度のみ



問17. 就職先を選ぶ際に重視した点（複数選択可）

学科C ● AB ● BS および FB ● MB ● 臨床



【1. 実験・研究・学び】（17件）

要約：

学生実験や研究活動を通じて専門知識を深めたことに満足している声が多く、卒業研究を通じて学びを実感したという前向きな意見が目立ちました。自分の興味に沿ったテーマに取り組めたことが、自信や将来への活力に繋がったと感じている学生もいました。

代表的な記述：

「研究活動を通して、自分が興味のある分野に深く触れられた。」
「実験や授業を通して多くのことを学び、今後に活かしていきたい。」

【2. 感謝・振り返り】（9件）

要約：

大学生生活を振り返り、保護者や教員への感謝を述べる記述が多数ありました。「支えられた」「ありがとう」という言葉が多く見られ、困難を乗り越えたうえでの達成感や満足感が読み取れます。肯定的な総括が多い一方、「大変だった」という言葉を含む記述もあり、苦労の多かった学生生活だったことも窺えます。

代表的な記述：

「つらいことも多かったが、それを乗り越えられてよかった。」
「保護者や先生に支えられて、4年間やり遂げることができました。」

【3. 人間関係・出会い】（6件）

要約：

サークル活動や研究室、友人関係など、大学内での人間関係の良さを振り返る意見が複数ありました。人とのつながりを通じた成長や、貴重な思い出としての人間関係が学生生活の中で大きな意味を持っていたことがわかります。

代表的な記述：

「サークル活動や研究室での出会いが、人生を豊かにしてくれた。」
「仲間や先生と過ごした日々が一番の思い出です。」

【4. 進路・成長】（6件）

要約：

大学での努力が進学や就職といった進路につながったことに満足している声がありました。また、「自ら主体的に動くことの大切さ」や「目標に向かう姿勢」を学んだという自己成長に関する記述も目立ちました。

代表的な記述：

「大学院に合格し、自分の道を見つけることができた。」
「やるべきことを自分で考えて行動する力が身についたと思う。」

【5. 環境・設備】（3件）

要約：

大学施設や交通環境に対する要望や不満が見られました。特に、地方大学ならではの通学の不便さや、食堂や施設の充実度への指摘があり、学生生活における利便性に関する課題を示しています。

代表的な記述（否定的含む）：

「電車の本数が少なく通学が大変だった。」
「もっと食堂が充実していればよかった。」

【6. コロナ影響】（2件）

要約：

パンデミックによって大学生生活に制限がかかり、期待していた経験ができなかったという無念さが語られています。特に入学初期の体験が制限され、サークルや交流に影響があった可能性が高いです。

代表的な記述（否定的）：

「パンデミックがなければもっと充実した学生生活が送れたと思う。」

【7. 否定的意見】（8件）

要約：

全体的には前向きな記述が多い中で、以下のような困難や不満が述べられていました：

学業が大変だった
通学が不便だった
思い描いた学生生活を送れなかった

こうした記述は否定的なトーンを含みつつも、結果的に「乗り越えてよかった」「今後に活かしたい」といった前向きな結びが多く見られました。

代表的な記述（否定的）：

「卒業まで大変だったが、得たものは大きかった。」
「期待していた学生生活とは少し違った。」

【総括】

回答全体からは、実践的な学び、人との関わり、達成感に重きを置く学生が多く見られました。

一方で、通学・施設・コロナによる制限など生活面や外部要因による制約については、否定的な声が少数ながらも明確に存在しています。